

組織目標評価報告書（平成24年度）

部局名：言語教育センター

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<p>①教育領域</p> <p>①-1 目標</p> <p>1. 英語系では、初年次における英語教育について、学生の英語レベルごとに教育効果の向上を図るため、継続して授業方法の検討およびFD研修を実施する。</p> <p>2. 英語系では、初年次における英語教育の必修時間を増やす観点から、カリキュラムの見直しを検討し、具体案を作成する。</p> <p>3. 授業時間外学習の促進のため、イングリッシュ・カフェの更なる充実および自主学習施設の改良を行う。</p> <p>4. 初修外国語系では、異文化への理解を促進するため、日本人学生と留学生との交流事業および海外協定校との交流プログラムを実施する。</p> <p>5. 初修外国語系では、学生の履修状況を検討の上、カリキュラムの改善を図る。</p> <p>6. 日本語系では、FDとして非常勤講師を含めた日本語教育研究会を開催する。</p> <p>7. 日本語系では、日本語コースのレベルや科目を増やし、教育体制の充実を図る。</p>	<p>自己評価</p> <p>1. 英語系では、授業方法の改良を図るため、7月7日及び11月28日にTeacher Development Workshopを実施した。英語新カリキュラムのスキル別の検討会を開催し、授業内容と授業方針のガイドラインを作成した。9月29日に英語新カリキュラム研修会を開催し、日本人及びネイティブ非常勤講師との意見交換を行い、新科目の授業取組について検討した。TOEICの授業効果の向上を図るため、11月10日及び平成25年2月9日に特別公開講座を含むTOEIC研修会を開催した。TOEFLに関する教授法検討会を1月30日に開催した。平成25年度に「総合英語4」を担当する教員でALONetAcademy2をまだ利用したことのない教員を対象に、2月9日に使用方法の説明会を実施した。FD活動として、さらに、My Share4回及びReading Group2回の活動を行った。</p> <p>2. 英語系では、初年次における英語教育の必修時間を増やす観点から、森田ヴィジョンに対応して、カリキュラムの見直しを検討し、英語新カリキュラム案を作成した。そして、7月24日開催の教育開発センター運営委員会において承認された。平成25年度からの新カリキュラム導入準備のため、各総合英語のレベル別授業内容を検討し、時間割作成作業と各クラスの担当者の決定等の実務作業を行った。平成25年度開設が決まったグローバル人材育成特別コースのための英語力養成プログラムを検討し、英語カリキュラム案を作成し、開講準備の実務作業を行った。</p> <p>3. 授業時間外学習の促進のため、イングリッシュ・カフェでは、会話を促進するためにアシスタント学生を増やし、イングリッシュ・テーブルや学習アドバイスなど、学生同士の学び合いを促進する体制をつくり、5月から7月に実施し、好評であった。前期のレッスン数を昨年の21から25に増やし、後期は、昨年の18から21に増やした。またTOEFLやIELTSなどのクラス種類を増やすとともに、前期は留学経験学生によるアドバイス・アワーを設けて、留学や語学研修、短期研修に対する意欲や海外への意識の向上に努め、EPOK派遣学生の多く(29名中26名)が利用した。イングリッシュ・カフェの更なる充実と自主学習施設の改良に向けて、新しい語学カフェスペースについて検討し、計画に沿って一般教育棟A棟別館1階の広いスペースに、3月に移転した。</p> <p>4. 初修外国語系では、7月23日～8月4日に上海理工大学校交流プログラム、平成25年2月3日～21日に成均館大学校交流プログラムを実施し、それぞれ12名の研修生を招いた。また8月6日～24日に成均館大学校夏期韓国語研修に、3月4日～16日に上海理工大学中国語研修に本学学生を派遣・引率した。また、平成24年度は、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語「カフェ」の定期的開催を実現させた。</p> <p>5. 初修外国語系では、「初級1」について4月開講時に履修状況を検証し、極端な大人数授業がなくなったことを確認した。また、後期履修者数とのバランスも考慮に入れて、9月開催の時間割編成作業部会にて総合公開講義コマ数を次年度さらに増やす計画を立てた。</p> <p>6. 日本語系では、日本語教育研究会を8回開催した。(年報に報告)</p> <p>7. 日本語系では、日本語コースのレベルを一レベル増やし、初級1から上級2までの7レベルを開講した。また、新たに科目「岡山を知ろう」を開講した。(年報に報告)</p>
<p>①-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>4. 協定校(成均館大学校、上海理工大学)との相互交流プログラムの実施、及びドイツ語、フランス語、中国語、韓国語の各「カフェ」の実施</p> <p>・日本語系ではFDとしての研究会を年に6回以上開催する。</p> <p>・日本語系では日本語コースのレベルを一レベル増やし、初級1から上級2までの7レベルとする。</p>	
<p>②研究領域</p> <p>②-1 目標</p> <p>1. 英語系では、学生の自学自習を支援するための方法等に関する研究を進める。</p> <p>2. 英語系では、教材の改善と学生の英語力およびモチベーション向上に資する利用法を検討する。</p> <p>3. 初修外国語系では、各語種共通の教授法改善に関する研究、それぞれの言語文化圏に関する研究を進める。</p> <p>4. 日本語系では、日本語教育及び日本語に関連する研究を行い、その結果を論文及び発表の形で公開する。</p>	<p>自己評価</p> <p>1. 英語系では、学生の自学自習を支援するための方法としてE-ラーニングを取り上げ、「上級英語・E-ラーニング・プロジェクト」に関する研究の成果をまとめ、6月16日～17日に広島大学にて開催されたThe 11th JALT Pan-SIG Conference、8月30日～9月2日にニュージランドのウェリントン・ピクトリア大学にて開催されたThe 5th Independent Learning Association Conferenceにて発表した。また学内においても、7月7日の英語系主催のワークショップにて発表した。上の3つの発表におけるフロアからの様々な質問や意見について検討することにより、E-ラーニングの授業への導入について考察を深めた。</p> <p>2. 英語系では、「リーディング」の教授法の向上を図るため、英米をはじめとしてわが国におけるアカデミック・リーディングの諸研究を調査し、合わせて担当教員の意見・プランを議論して、多読と精読の効果的な教授法を検討した。その成果は、年報に報告した。今年度より開講した習熟度別の上級英語(TOEIC500点以上と600点以上)について、担当教員へのアンケートを実施した。授業効果と課題を検討した結果は、年報に報告した。習熟度別のクラスに対応して、一般学術英語の教材研究に継続して取り組んだ。</p> <p>3. 初修外国語系では12月5日に特別講演会「フランス語教師養成講座(DEF)の研修と教授法について」を開催し、初修外国語教授法研究の場とした。</p> <p>4. 日本語系では、論文等の出版、研究発表を合わせて18件(一人平均4.5件)行った。(添付資料)</p>
<p>②-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>4. 刊行物による研究発表</p> <p>・日本語系では論文・著書等の出版または学会での研究発表を一人一件以上行う。</p>	
<p>③社会貢献(診療を含む)領域</p> <p>③-1 目標</p> <p>1. 英語系では、英語を共通言語とする異文化理解のための公開行事を実施する。</p> <p>2. 英語系では、高校生などを対象に大学における英語授業を体験する機会を設ける。</p> <p>3. 初修外国語系では、外国語の学習を通して人と文化についての理解を深めるという視点から以下の業務を主体的に進める。</p> <p>(1)一般市民に公開された講座や講演を実施する。</p> <p>(2)各種外国語運用能力に関する外部の検定試験の実施を支援する。</p> <p>4. 日本語系では、一般市民に公開された公開講座を実施する。</p> <p>5. 日本語系では日本語教育副専攻コースに社会人を受け入れ、大学と社会との連携を深める。</p>	<p>自己評価</p> <p>1. 英語系では、公開行事として、1月17日にInternational Nightを開催した。</p> <p>2. 英語系では、高校生を対象に、8月6日にEnglish on Campus、8月9日と10日に「高校生のための大学講座」"Enjoying English through music and movie"を開催した。</p> <p>3. (1)初修外国語系では、11月21日に特別公開講座「日本で韓国語を教えるということ」を開催した。</p> <p>(2)初修外国語系では、フランス語検定試験(仏検)春期およびドイツ語検定試験(独検)秋期の岡山試験会場責任者を務めた。</p> <p>4. 日本語系では、公開講座を2回実施した(年報に報告)</p> <p>5. 日本語系では日本語教育副専攻コースに24年度新規生5名、23年度からの継続生2名、計7名の社会人を受け入れた。(年報に報告)</p>
<p>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>3. 特別公開講座の実施、及び外国語検定試験の支援</p> <p>・日本語系では公開講座を年2回実施する。</p> <p>・日本語系では日本語教育副専攻コースに複数の社会人学生を受け入れる。</p>	
<p>④センター業務</p> <p>④-1 目標</p> <p>●共通外国語教育の立案・実施・改善に責任を持ち、全学的な観点から以下の業務を主体的に進める。</p> <p>1. 共通外国語教育(大学院を含む)の実施計画策定とその遂行</p> <p>2. 外国語教育FD活動の実施</p> <p>3. 国際交流・連携事業の実施</p> <p>4. 言語・外国語文化に関する、地域社会との連携事業の実施</p> <p>5. 本学における外国語教育実施状況とその成果の広報</p> <p>6. 外国語教授法研究・異文化研究の推進と支援</p> <p>7. イングリッシュ・カフェならびに多言語カフェ、語学学習室および関連施設の管理・運営</p>	<p>自己評価</p> <p>1. 英語系では、森田ヴィジョンに基づく英語新カリキュラム案を作成した。平成25年度導入が決まったので、準備の実務作業を行った。グローバル人材育成特別コースのための英語力養成プログラムを検討し、英語カリキュラム案を作成し、平成25年度開講準備の実務作業を行った。英語系では、社会科学部文化科学研究科自然科学研究科において、英語ネイティブ教員による科目を開講した。初修外国語系では、社会科学部文化科学研究科共通科目として「基礎ドイツ語1、2」を開講した。</p> <p>2. 英語系では、Teacher Development Workshop、研修会、説明会、My Share、Reading Group、特別公開講座を実施した。(年報に報告)</p> <p>3. 協定校(成均館大学校、上海理工大学)との相互交流プログラムを実施した。</p> <p>4. 英語系では、特別公開講座(5月23日: Professor Yoshiyuki Narita, "Classroom English as dialogue"); 11月10日: 達川奎三教授「広島大学の英語教育—その実像と将来像」; 11月14日: Dr. Adam Brandt, "Living abroad")及び公開講座(11月28日: Alice Godenker氏, "My Foreign Adventure: Japan")を実施した。(年報に報告)</p> <p>5. 言語教育センター「年報」パンフレットを刊行した。</p> <p>6. 外国語教授法研究・異文化研究等の出版及び学会での発表を行った。</p> <p>7. イングリッシュ・カフェならびにドイツ語・韓国語・中国語・フランス語・日本語の各カフェ、語学学習室及び関連施設の管理・運営を行った。授業期間中にイングリッシュ・カフェは平日毎日、ドイツ語・韓国語・中国語・フランス語・日本語の各カフェは毎週開催した。(年報に報告)</p>
<p>④-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>1. 2. 6. (初修外国語系)教授法検討作業部会、時間割編成作業部会の活動、大学院向け外国語基礎科目開講</p> <p>3. (初修外国語系)相互交流プログラムの実施</p> <p>5. センター「年報」パンフレットの刊行</p> <p>7. 各国語カフェの管理・運営</p> <p>・授業期間中にドイツ語、韓国語、中国語、フランス語、日本語の各カフェを毎週開催する。</p>	
<p>【総括記述欄】</p> <p>平成24年度は、いづれの領域においても、十分に目標を達成していると考えられる。なお、今年度は、平成25年度からの英語新カリキュラムの導入ならびにグローバル人材育成特別コース英語力養成プログラムの開始に向けて、担当教員の確保ならびに時間割調整の作業を集中的に実施したため、事務的作業の英語教員への負担が非常に大きくなった。次年度は、さらに、イングリッシュ・カフェがL-Cafeとして移転拡大するのに伴い、パソコンのメンテナンスを含む、管理・運営の業務量が增大するため、現行の教員だけでは、オープン時間(10時30分～19時30分)の4つのエリアの管理・運営に支障が起こることが懸念される。そこで、繁忙期には、教務関連業務を担当するL-Cafe 常駐の事務補佐員が必要であることを、要検討課題として記載しておく。</p>	